

京都市はぐくみ推進審議会平成30年度第1回「子どもの健全育成推進部会」「教育環境づくり部会」「支援を必要とする子どものための部会」共同部会 摘録

日 時 平成30年6月25日（月）10：00～12：00

場 所 職員会館かもがわ 3階第2多目的室

出席者 初田幸隆会長，伊豆田千加委員，井筒隆夫委員，岡美智子委員，
渋谷千鶴委員，杉原颯太委員，芹澤出委員，鶴丸富子委員，徳岡博巳委員，
中川佐和子委員，長澤敦士委員，藤本明美委員，細川みゆき委員，
山手重信委員 （14名）

欠席者 雨宮万里子委員，石塚かおる委員，大澤彰久委員，小谷裕実委員，
藤本明弘委員 （5名）

次 第

- 1 本市挨拶
- 2 部会員及び事務局の紹介等
- 3 報告
 - (1) 京都市はぐくみ推進審議会について
 - (2) 児童福祉分科会の設置について
 - (3) 子ども・若者に係る総合的な計画検討のための部会の設置について
- 4 議題
 - (1) 子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の実施について
 - (2) 小学生等の放課後の過ごし方に関する実態調査について

(司会：相川 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課健全育成係長)

司会	<p>平成30年度 第1回「子どもの健全育成推進部会」「教育環境づくり部会」「支援を必要とする子どものための部会」共同部会を開催する。</p> <p>本日の会議については、市民の皆様には議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第7条第1項の規定に基づき公開することとしているので、あらかじめ御了承いただきたい。</p> <p>また、本日の議題である「小学生等の放課後の過ごし方に関する実態調査」(資料7-1, 7-2)が、市立小学校及び市立総合支援学校に通う生徒・児童を対象にした調査であることから、本日は3つの部会の共同で会議を開催することとした。</p> <p>それでは、はじめに、上田子ども若者未来部長より挨拶を申し上げます。</p>
上田部長	(開会あいさつ)
司会	<p>「京都市はぐくみ推進審議会条例」第6条第3項において、当共同部会は、委員の4分の1以上が出席し、かつ、各部会の委員が1名以上出席しなければ会議を開くことができないこととされているが、本日は、途中から出席の委員を除き、委員19名中、11名の方に御出席いただいております、かつ各部会から1名以上の委員に御出席いただいているため、会議が成立していることを御報告申し上げます。</p> <p>それでは、初田部会長から挨拶をいただきたい。</p>
初田部会長	(初田部会長あいさつ)
司会	<p>それでは、本日の議事に移らせていただく。</p> <p>ここからの議事進行につきましては、初田部会長にお願いしたい。</p>
初田部会長	<p>それでは、議事に入る。</p> <p>次第の「3報告」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	資料3「京都市はぐくみ推進審議会について」、資料4「児童福祉分科会の設置について」、資料5「子ども・若者に係る総合的な計画検討のための部会の設置」を用いて説明
初田部会長	ただ今の事務局からの説明について、御質問等があればお願いしたい。
初田部会長	質問がないようなので、議題に移らせていただく。まず、「(1) 子ど

	も・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の実施について」事務局から説明をお願いしたい。
事務局	資料6「子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の実施について」を用いて説明
初田部会長	ただ今の事務局からの説明について、御質問等があればお願いしたい。
芹澤委員	市民ニーズ調査のうち、調査ごとに関係のある項目について、関連付けての集計は可能か。
事務局	関連付けての集計・分析を行っていく予定である。
初田部会長	青少年・若者に関する調査について、13歳以上が対象となっているが、実際には小学校高学年の児童には中学生と変わらない問題が起きている。年齢について、もう少し検討されてもいいかと思う。
渋谷委員	発達の遅れに気づいた親の意識に関する項目があっても良いのではないか。
事務局	障害のある児童に関する調査の部会において、別途検討していきたい。
井筒委員	回答率向上のために取組は行っているか。
事務局	質問項目数を減らしたり、イラストを入れるなどして、コンパクトで回答しやすい調査票になるよう工夫している。
初田部会長	他に御質問等なければ、「(1) 子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の実施について」に係る審議はこれで終了する。 それでは、次の議題である「(2) 小学生等の放課後の過ごし方に関する実態調査について」に移らせていただく。まず、「小学生等の放課後の過ごし方に関する実態調査について（小学校1，4，6年生）」、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料7-1「小学生等の放課後の過ごし方に関する実態調査について（小学校1，4，6年生）」を用いて説明。

初田部会長	ただ今の事務局からの説明について、御質問等があればお願いしたい。
藤本委員	問2の回答の選択肢が少ない。例えば、放課後に一人でどこかへ出掛ける子どもや、子ども食堂を利用する子どももいると考えられる。学童クラブ事業で全てをカバーするのは限界があるため、他の資源についても活用できるよう探るべきではないか。
事務局	回答率を上げるため、設問数を少なくしており、その結果、学童クラブ事業や放課後まなび教室に関する項目が多くなってしまっている。年齢層が上がるにしたがって児童の行動範囲も広がっていくと考えられるため、他の項目についても検討していきたい。
鶴丸委員	「友人と過ごす」等の設問は選択肢が大雑把過ぎるのではないか。
徳岡委員	「友人と過ごす」といっても色々なパターンがあり、詳細に設問として設定するのは難しいかもしれないが、調査票の作成に当たり、他都市の調査も参考にしているのか。
事務局	他都市の調査は参考にしながら作成している。
初田部会長	保護者の状況も重要である。例えば問1-2について、放課後に保護者が在宅かどうかは分かるが、子どもの預け先がないから等、様々な事情で家に居るパターンが考えられる。保護者の働き方と、今回の調査で得られる回答は関連付けて集計を行うのか。
事務局	保護者の就労状況及び就労の意思等について尋ねるよう質問票を修正する。また、資料6「子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査」において保護者の就労について質問し、その結果を関連付けるかを検討していきたい。
細川委員	児童館や学童クラブへのニーズが多様化しているため、それに対応した設問や分析が必要になる。学区内に児童館があるかどうかで、保護者の感じ方も異なってくる。また、児童館の自由来館について、保護者がどれだけ理解されているのかも分からない。記入いただく際に、子どもと一緒に回答するよう促せば、より一層正確な子どもの状況が分かるのではないか。
事務局	回答の際の注意事項や呼びかけについては、今後検討していく。また、

	<p>児童館の自由来館と学童クラブの区別についても、質問票の中で丁寧に説明していきたい。</p>
鶴丸委員	<p>放課後等デイサービスに関する設問（問８－１）について、「空きがあったから、受け入れてもらえたから」の選択肢が必要。障害の程度によっては放課後等デイサービスの事業所を選択できない場合もある。</p>
事務局	<p>選択肢の追加を検討する。</p>
芹澤委員	<p>学童クラブと放課後まなび教室で、設問の選択肢が一部異なる部分があるため統一したほうが良い。</p>
事務局	<p>修正する。</p>
藤本委員	<p>放課後等デイサービスについて、送迎関係で困っている場合が多いと聞いている。</p>
鶴丸委員	<p>放課後等デイサービスの送迎については、事業所側でそれぞれ工夫されており一般論にはなりえないので、こういった調査で質問するのは適切でない。</p> <p>放課後等デイサービスにおいて、「ただ預かって欲しい、療育は二の次」といった本来の目的にそぐわない理由での利用が多くなっている。事業所の質が問題視されている中で、何か設問等で反映できないかと思う。</p>
初田部会長	<p>放課後等デイサービスの利用者の思いをもう少し把握できるよう、設問を工夫していただければと思う。</p> <p>それでは、続いて「小学生等の放課後の過ごし方に関する実態調査について（総合支援学校に通う児童）」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料７－２「小学生等の放課後の過ごし方に関する実態調査について（総合支援学校に通う児童）」を用いて説明を行う。</p>
初田部会長	<p>ただ今の事務局からの説明について、御質問等があればお願いしたい。</p>
鶴丸委員	<p>小学校１，４，６年生を対象とした調査と同様だが、放課後等デイサービスの選択理由には、「選択する」だけでなく「選択される」ケース</p>

	が多いため、設問に反映してほしい。
事務局	反映させたい。
渋谷委員	サービス利用支援計画とセルフプランがあるが、京都市ではセルフプランが多く、療育においてサービス利用支援計画を重視していないことがうかがえる。それに関する設問を入れて欲しい。
事務局	相談支援については、今回の放課後調査とは別に、障害のある児童に係る調査の中で状況把握していく予定である。
伊豆田委員	問3の就労について、敢えて就労していないのか、働きたくても働けないのか、設問を工夫するべきである。
芹澤委員	学童クラブ事業の設問では利用理由を聞いているが、放課後等デイサービスの設問では事業所の選択理由を聞いている。どちらかに統一してはどうか。
事務局	学童クラブ事業においては多くは居住学区及びその周辺の学童クラブを利用することになるが、放課後デイサービスの事業所は選択の幅があるため、選択理由を聞いている。
長澤委員	保護者が回答することになっているが、保護者が子どもの過ごし方をどこまで把握しているか疑問である。「わからない」という選択肢があっても良いのでは。
事務局	他の調査と関連し、選択肢の追加を検討していく。
渋谷委員	放課後の過ごし方については、場所だけではなく過ごし方の内容も聞くべきではないか。例えば、家に一人で居ても、友達と外に居ても、ゲームをしている子どもが多い。
初田部会長	それについては、設問の狙いがどこにあるのかによるだろう。子どもの過ごし方の内容まで掘り下げるものなのか、制度や仕組み的なものの検討のための設問なのか。
事務局	本調査においては「何をして」ではなく「どこで」という点に主眼を置いており、各事業の状況や、制度的な部分について確認したいと考え

	<p>ている。</p>
細川委員	<p>長期休みの間の過ごし方は平日の放課後の過ごし方と異なるかと思うが、どうするのか。</p>
事務局	<p>今回は放課後の過ごし方に関する調査であり、設問数を抑制する観点からも、長期休みの間の過ごし方についての設問は設けない。</p>
徳岡委員	<p>保護者や子どもの意見だけでなく、各事業において実際に従事している職員の声も聞くべき。</p>
事務局	<p>現場の職員からの意見聴取は別途検討している。</p>
中川委員	<p>実際に子どもが学童を利用しているが、保護者としては精神的に非常に助けられている。</p>
岡委員	<p>放課後等デイサービスについては、質の低下が問題になっている。利用者の意見を聞くだけでなく、事業所の実態もあわせて調査すべきではないか。</p>
事務局	<p>障害のある児童に係る調査の一環で、各事業者を対象とした調査もある。ただし、事業所の問題が事業所への調査で明らかになるとは限らないため、監査等も併せて実態把握に努める。</p>
杉原委員	<p>放課後等デイサービス等の情報をどこで得られるのかわからないという問題がある。問10-1の選択肢7について、誰からの情報なのか記載するようにしてほしい。</p>
藤本委員	<p>保護者の意識と子どもの意識は大きく異なると考えられるため、自由記述欄を最後に設けて欲しい。そこで「子どもに聞いてください」等説明を付けて、設問に入れるべき。</p>
初田部会長	<p>本日の議事については、以上となる。 ここまでを通して、改めて御意見・御質問等があれば願います。</p> <p>(質疑なし)</p> <p>定刻となったので、閉会とする。</p>

	(以上)
--	------